



### ○解決の糸口

継続が危ぶまれるほど不安でしたが、「一緒にやります」と手を挙げてくれる人がいて、新たな役員体制でスタートしました。震災の年も総会に参加した宮古の会員から「公共の事業がみな自粛です、民間の力で実施できる行事は続けて欲しい。それが被災地の励ましになります。」と発言があり、全員の心を打ち、続けるきっかけになりました。ただ1回、2回目と実施したライトアップはその後実現に至っておりません。

2012年7月には、活動の拠点として、岩手県対がん協会が一室を無料で貸して下さるとい、うれしい出来事がありました。仁昌寺会長は、印刷物に「事務局：岩手県対がん協会内」と明記できたことは、ピンクリボンの会が社会的に認めてもらえ、人格を与えてもらったように感じたと、当時を振り返っています。



講師：柏葉匡寛先生



講演会：えーそうだったのね…。



このへんに何か触れませんか？ どれどれ



お母さんと一緒に飾ってね…



出発前の準備体操は〈岩大保健体育科栗林教授〉の指導でバッチリ！



参加グループで記念写真

中の橋下中津川河川敷でのスマイルウォーク